

提 言 書

— 令和2年議会報告を終えて —

栗山町議会

はじめに

栗山町議会の議会報告会（以下「報告会」という。）は、平成17年3月に宮城県本吉町（当時）に続き全国2例目として開催して以来、今年で16年目を迎えた。

今年の報告会は、令和2年2月3日から10日までの日程で、町内12会場において開催した。

実施における目的は、大きく2つある。1つに、「まちが直面する課題」について町民と意見交換を行うこと。もうひとつは、「議会としての説明責任を果たす事」である。

1つ目の「まちが直面する主な課題」としては、①栗山赤十字病院、②北海道介護福祉学校、③栗山高校について、を取り上げた。

2つ目の「議会として説明責任を果たす事」については、主に昨年9月の議会定例会で廃止が決定した栗山スキー場に加え、議会の活動状況や議員のなり手問題について町民に対し説明した。

それぞれ町民に説明し意見交換も行った。延べ283名の町民の参加があり、それぞれのテーマに対して、数多くの意見や要望が出された。

これらの意見や要望については、議会から行政に対して提言するもの、常任委員会における所管事務調査に反映するもの、議員個々に取り上げるものなどにそれぞれ分類した。

この提言書は、前述した議会内での討議を経てまとめたものであり、町民からの貴重な政策提案として、今後の行政運営の一助とされることを期待する。

令和2年3月27日

栗山町議会 議長 鵜川和彦

1. 諸課題に対する提言・要望

□栗山赤十字病院の改築について

(議会の見解・提言)

栗山赤十字病院の改築問題は、まちが直面する課題として、町長、議会の双方が町民との対話を続けている。

昨年に続き議会報告会のテーマとして取り上げ、産業福祉常任委員会が所管事務調査において調査した内容を町民に説明し、意見聴取を行った。

参加者の多くが栗山赤十字病院の存続（建て替え）を望むなか、存続にあたり広範にわたる意見が出された。病院機能の充実強化を中心に財政的課題に対する懸念等が多くみられたが、特徴的であったのは行政、議会の双方に対し、改築問題に対する情報を出してほしいということであった。

これは、議会基本条例は勿論であるが自治基本条例の重要なファクターである情報公開と共有、そして住民参加につながるものである。

こうした取り組みが、病院改築問題という本町にとって極めて重大な問題に対して、住民の理解と信頼を得ることにつながると思う。

今後、基本構想の策定にステージが移っていくが、人口減少という難しい局面のなか、より多くの町民に信頼、期待される南々空知の中核病院として相応しい構想となるよう議会、町民との情報共有をしっかりと行うことが鍵となると考え、令和2年議会報告会における提言とする。

(報告会おける町民からの発言)

- ・改築問題についてもっと情報を出してほしい。
- ・赤字のようだがなくてはならない。改築も必要だ。
- ・日赤病院は残してほしい。
- ・日赤病院は必要だが、町は身の丈に合った予算で。
- ・医師確保と機器の充実が重要である。
- ・病院への足を確保してほしい。バスを利用しやすいようにしてほしい。
- ・診察終了が早い。働いている若者が診察できるよう延長してほしい。
- ・若い人が掛かる、小児科や産婦人科がほしい。

2. その他、報告会における町民からの発言

今回の議会報告会で受けた町民からの発言のうち、議会として回答した内容から、「まちが直面する主な課題」に関連する事項について掲載する。

(報告会における町民からの発言)

【介護福祉学校について】

- ・栗山高校と同一施設内にできないか。
- ・8,000万円も税金を投入するのなら廃止すべき。
- ・行政主体である事に甘えているのではないか。ほかの事業に資金を回すべき。
- ・介護学校の町への貢献度は低いと言われるが、学生は課外活動も行い貢献している。

【栗山高等学校について】

- ・高校は必要である。
- ・給食センターを利用して給食を提供してはどうか。

【その他】

- ・人口減少に伴い、町としてどのような策を練っているか。
- ・町民の交通手段をどうするのか。タクシー会社が減になると困る。

栗山町議会